

北斗市 橋梁長寿命化修繕計画

平成 25 年 2 月
(令和 4 年 8 月改訂)



北斗市 建設部土木課

長寿命化修繕計画の目的

(1) 背景

北斗市が管理する橋梁は、令和4年2月1日現在で115橋（歩道橋10橋を含む）あります。

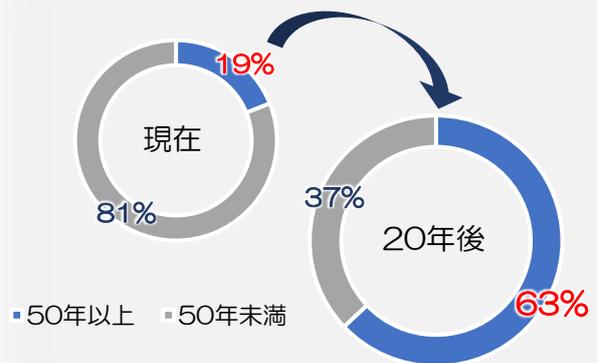
このうち、建設後50年以上を経過する高齢化橋梁は、現在のところ18橋で全体の15%程度ですが、15年後には、管理橋梁の51%にあたる橋梁が高齢化橋梁となります。

このような状況から、今後増大が見込まれる橋梁の修繕・架け替えに必要な経費に対して、可能な限りコスト縮減を図る取り組みが不可欠な状況となっています。

(2) 目的

橋梁長寿命化修繕計画は、橋梁の維持管理これまでの「事後保全的な対応」から、「計画的かつ予防保全的な対応」へと転換して道路交通安全性を守るとともに、橋梁の長寿命化と修繕・架け替えに係るコストを縮減することを目的として策定します。

北斗市の橋の現状 - 高齢化が進む橋 -

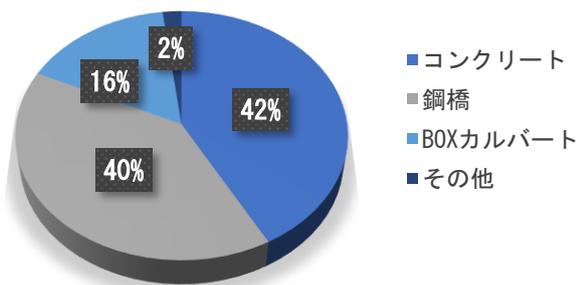


(今後建設される橋はグラフ上には考慮されていない)

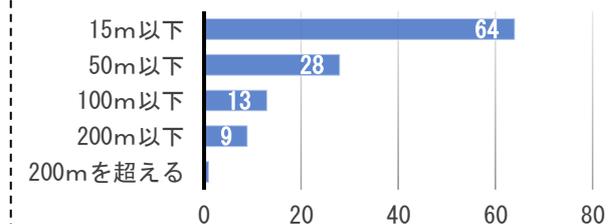
長寿命化修繕計画の対象橋梁

	1級市道	2級市道	その他市道	合計
全管理橋梁数	25	18	72	115
車道橋 105 橋、歩道橋 10 橋				

橋梁形式の内訳



橋長別橋梁数



健全度の把握および日常的な維持管理に関する基本的な方針

(1) 健全度の把握の基本的な方針

「北海道市町村橋梁点検マニュアル（案）北海道道路メンテナンス会議」に基づいた、近接目視による点検（定期点検）を概ね5年に1回の頻度で実施して、橋梁の健全度の把握・評価を行います。

(2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール、清掃（特に排水柵の土砂詰まりや橋座の土砂堆積）などの実施を徹底します。

対象橋梁の長寿命化及び修繕・架け替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

(1) 基本的な方針

予防的な修繕を実施することによる長寿命化、ならに計画的な架け替えによってライフサイクルコストの縮減を図ります。

橋梁長寿命化修繕計画は、定期点検の結果を踏まえ適宜見直しを行います。

補修の優先順位は、定期点検結果および道路の重要度や交通量、橋梁の規模や共用年数などを総合的に勘案して決定します。

(2) 対象橋梁の状態

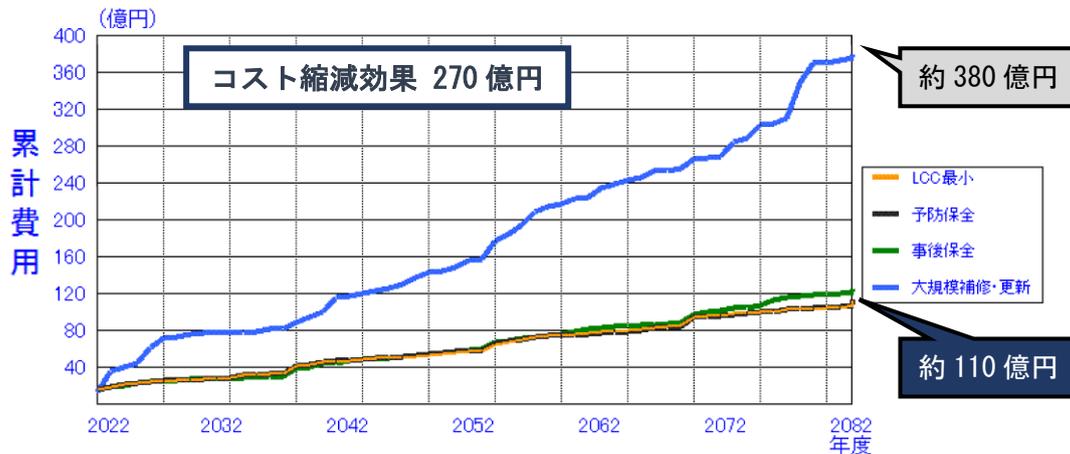
対象橋梁の点検・診断結果は、「橋梁点検結果」に示します。

対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期および修繕内容・時期または架け替え時期

別紙、修繕対象橋梁一覧表に示します。

長寿命化修繕計画による結果

今後60年間の事業費を比較すると、従来の大規模修繕更新型が380億円なのに対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が110億円となり、約270億円のコスト対象橋梁の点検・診断結果は、「橋梁点検結果」に示します。



また、以下の取り組みを実施して更なるコスト縮減を目指します。

○新技術の活用及び推進

厳しい財政状況や人材不足の中でも管理橋梁を確実に維持管理し続けることを目的として、次回点検が始まるR6年度までに、新技術情報提供システム(NETIS)や点検支援技術性能カタログ(案)などを参考に3橋程度の新技術の活用を検討し、300万円程度のコスト縮減を目指します。

○集約化・撤去

R8年度までの5年間に、1橋程度の管理橋梁について、社会情勢や施設の利用状況の変化、施設周辺の道路の整備状況、点検・修繕・更新等に係る中長期的な費用等を考慮しつつ、施設の撤去に伴う迂回路整備や、機能縮小などの検討を行いコスト縮減を目指します。

○直営点検の実施

橋長が短く構造が単純な橋梁について、市職員自らによる点検(直営点検)の可否および新技術による点検業務を検討し、R7年度までに10橋程度の橋梁についてこれらを実施し5百万程度のコスト縮減を目指します。

修繕計画策定担当部署

北斗市 建設部土木課 土木係 TEL : 0138-73-3111

今後10年間で修繕・予防保全を予定する橋梁：32橋

第6新川橋、矢不來台場跨道橋、小川橋、第4村内橋、大当別歩道橋（歩）、当別川橋、鮭見橋（歩）、上戸切地橋、第7新川橋、萩立橋、第2号橋、萩野橋、第4稲里橋（拡幅）、第2長橋、大野大橋、上磯大橋、久根別5号橋、茂辺地橋、上追分橋、柳川橋、新宗山川橋、大工川歩道橋（歩）、上有川橋（歩）、戸切地橋（歩）、宗山橋、端の川1号橋、御手洗橋、長瀬橋、三好橋、当別新橋、上流溪橋、豊年橋